

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務			作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株	
工期	令和6年4月1日 ~ 令和7年3月31日			作成者	鈴木 悠平	
作業名称	立入防止柵簡易扉設置			作業手順書	作成年月日 令和3年4月6日	
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	2tトラック			改正年月日		
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	レンチ、スパナ、インパクトドライバー、パンセンカッター			現場責任者		
保護具	ヘルメット、手袋、防護メガネ、防塵マスク			協力会社	会社名 -	
	自動車運転免許証 振動工具				協力会社責任者	自衛サイン -
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す				作業順序		
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	作業責任者 1人、作業員 2人、保安員 1人 合計 3名			1	現地確認	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)		周知会実施日	令和2年12月1日	2	準備作業
	(役割を確認してこの作業に関わ る全員が自衛サインする)				3	既存金網の撤去
					4	簡易扉設置
					5	南京錠設置
					6	後片付け
					7	
					8	

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
現地確認(全員)	(誰が) 主なステップ	作業のポイント							
	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	構造物の確認							
準備作業(全員)	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の始業前点検、 工具の確認								
		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用プレートの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両幕がロール及び養生テープで確実に固定されていることを確認。 担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。 車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。							
既存金網の撤去 (責任者、作業員)	既存の金網をパンセンカッターで撤去する。	飛散注意	金網切断時破片が目に入る。	△	△	△△	3		保護メガネを着用し作業する。
		金網の端部注意	金網の端部で損傷する。	△	△	△△	3		保護手袋を着用し、端部が鋭利な場合はベンチ等で曲げるなど端部処理を行なう。
簡易扉設置 (責任者、作業員)	既存金網にコンパクトブレースを挿入する	手元注意							
	インパクトドライバーを使用し吊り金具とコンパクトブレースを固定する。	手元注意	締め付け時に指を挟む	△	△	△△	3		手袋を着用し作業する。
	インパクトドライバーを使用し吊り金具とスイングドアを固定する。	手元注意	締め付け時に指を挟む	△	△	△△	3		手袋を着用し作業する。
南京錠設置	開口部と既存のフェンスにチェーンを巻きつけ南京錠で固定する。	設置し忘れ注意	施錠し忘れて、誤って一般客が敷地内に入ります。	△	△	△△	3		二人以上で施錠を確認する。
後片付け (責任者、作業員)	清掃	破片、工具等が残っている							工事車両幕を取外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事